

令和2年第1回（3月）筑紫野市議会定例会

【予算審査特別委員会 委員長報告】

議案第22号令和2年度筑紫野市一般会計予算の件が予算審査特別委員会に付託を受けていましたので、その審査の経過と結果についてご報告いたします。

本特別委員会は、去る2月28日に設置され、同日委員会を開催し正副委員長の互選、審査日程の協議及び資料要求事項を決定しました。

また、執行部からは、歳入歳出予算の総額をそれぞれ318億6,400万円とする令和2年度予算の総括、歳入状況、目的別・性質別歳出状況、自主財源・依存財源の状況、増減する主な事業、新規事業など予算概要の説明を受けました。

次に、3月11日から12日における各課集中審査では、7部門25課から78項目にわたる詳細な説明を受けました。まず全般的な事項として予算編成方針などの説明を受け、令和2年度予算を審査するうえで前提となる内容を把握しました。そのうえで、予算審査資料に基づき第六次筑紫野市総合計画の5つの政策の推進に向けて編成された予算の内容・必要性など多様な観点から審査しました。

まず、行財政改革では、企画政策部、市民生活部、建設部、環境経済部所管の13項目の審査を行いました。そのうち、会計年度任用職員への制度変更に伴う影響に関して、非正規職員の待遇改善につながる変更なのかとの質疑があり、正規職員同様に期末手当や通

勤手当などの諸手当が支給されることから待遇改善につながる見込みであるとの答弁がありました。

次に、産業・雇用をつくるでは、建設部、環境経済部所管の16項目の審査を行いました。そのうち、経済対策事業住宅改修工事補助事業に関して、本事業は補助金額に対する市内事業者への経済効果が非常に高く、市民の関心も高い施策であると考えますが、予算額の増額は検討しなかったのかとの質疑があり、今年度の状況は消費税増税による駆け込み需要によるものと認識しているため、令和2年度の状況を見たとうえで今後検討していくとの答弁がありました。

次に、生活を守るでは、総務部、健康福祉部所管の5項目の審査を行いました。そのうち、防犯灯補助事業に関して、電気料削減の観点からLED化を進めるべきだと思うが長期的な更新計画はあるのかとの質疑があり、防犯灯は地元の所有であるため、計画的なLED化については地元での対応をお願いしているとの答弁がありました。

次に、共助社会づくりでは、企画政策部、市民生活部、健康福祉部所管の5項目の審査を行いました。そのうち、ホームページ運営事業に関して、ホームページのリニューアルを検討する際に重視する点は何かとの質疑があり、主なものとして、現在のパソコン版に加えてスマートフォン版でも閲覧ができるようにすること、また、障害者差別解消法に適切に対応するため、よりアクセシビリティを高めた機能を備えていること、さらにできるだけ多くの外国語に対応する機能を備えていることである、との答弁がありました。

最後に、未来をつくるでは、企画政策部、健康福祉部、教育部、建設部、環境経済部所管の36項目の審査を行いました。そのうち保育人材確保対策事業に関して、保育士の勤務状況の改善に寄与しているのか、また保育補助者の保育士資格取得を促すことにつながっているのかとの質疑があり、保育補助者を雇用することで、より多くの職員で子ども達を見守ることができるようになり保育士の負担軽減につながっている、また保育補助者の中には保育士の仕事に興味を持ち資格取得を目指す方もいるので新たな保育士の確保につながることを期待するものであるとの答弁がありました。

委員会では審査を通して、令和2年度筑紫野市一般会計予算は、子育て世代の支援や教育環境の整備に重点を置きつつ、施政方針で述べられている行財政改革、産業・雇用をつくる、生活を守る、共助社会づくり、未来をつくる、という5つの政策に沿って各種事業がバランスよく計上されており、必要性・有効性・効率性を考慮した予算であることを確認しました。また、討論、採決を行う前に委員全員により審査全体の総括を行い、保育人材確保対策事業などを通じての待機児童の解消、小中学校のICT化に向けた計画の策定、開発等により児童・生徒数の増加が見込まれる学校への対応、新型コロナウイルスへの対応などを重点項目ととらえ、各事業の進捗を議会として注視していくことで一致しました。

討論はなく採決の結果、全員一致にて、原案のとおり可決すべきものと決しました。以上で、予算審査特別委員会の審査報告を終わります。